



諏訪



城東区の最南部に位置する当地域は、その名の由来となった諏訪神社をはじめ神社仏閣が数多く存在し、昔ながらの街並みが残っているところと、マンションが多くそびえ立つ地域に大別されます。

また子ども園、保育園から高校まで揃った文教地域でもあります。そして安心、安全な町をめざし、毎月2回夜間に防犯パトロールを実施することで、目に見える防犯活動を展開しています。高齢者の方々へは、敬老月間に75歳以上の方に災害時の非常食としても使えるようにレトルト赤飯をお配りし、秋の「友愛訪問」時には携帯カイロを持って高齢者家庭を訪問しています。全住民に対しての楽しみとして長年盆踊りを大規模に開催していましたが、3年間コロナ禍で実施できていないのが残念です。しかし、コロナ禍で一時中止していた「ふれあい喫茶」や「高齢者食事会」それに「子育てサロン」なども再開でき、盆踊りも復活をめざしてがんばっていきます。

なお、環境への負荷軽減として使用済みペットボトルからペットボトルへの再生をめざし、専用の回収日を設けて住民の皆さんに協力をいただいています。

他地域と比べて防災関連の取り組みが遅れていたため、現在は防災関連に力点を置き、勉強会、防災訓練を開催し、万一の事態に備えています。



中浜



城東区の南端にあり、中浜小学校下で白山神社を氏神様として木造住宅が数多く残る大阪の下町の中浜地域活動協議会は、人口4,478人2,226世帯の城東区で一番小さな地域活動協議会です。平成25年に、コミュニティ・福祉・防犯防災の3部会でスタートしました。「夏の盆踊り」・「秋の敬老の集い」・「安否確認・防災訓練」や、女性部による「ふれあい喫茶」「高齢者食事サービス」「子育てサロン」など、中浜地域の活性化と住民の皆様の絆づくりを積極的に進めてきた10年であったと思います。残念ながら令和2年からはコロナ禍で多くの活動を制限せざるを得ませんでした。中浜では大阪モデルに基づいた「感染症における行事等開催に関わる基準」をつくり、行事・会議の開催の是非をその都度判断してきました。盆踊りや敬老の集いなど多くの行事を中止にした中で、安心・安全にかかわる青パトでの地域巡回・感染症下での避難所開設訓練（令和2年）・感染症、風水害下での避難所開設訓練（令和3年）・避難所開設夜間訓練（令和4年）は町会役員や多くのボランティアの参加を得て3年連続で開催することができました。また令和4年4月からは「高齢者食事サービス」をテイクアウト方式で再開、10月には「高齢者向けのノルディックウォーキング」を開催しました。

令和4年度、新しく発足した広報部会では、7月に広報誌「仲は問えにし」創刊号を発行し、フェイスブックで中浜の魅力を随時発信しています。早くコロナ禍が終息することを願いつつ、次の10年にむけて中浜地域の発展・住民の絆づくりと活性化の取り組みを地域の皆様とともに進めていきます。



森之宮



森之宮地域は、八割以上が高層住宅にて構成されています。地域の高齢化が進む中、「スマートエイジングシティの理念を踏まえたまちづくり」を展開しています。行政・UR・大学・病院・薬局等の参画をいただき、「高層住宅における災害弱者支援事業」に取り組んでおり、災害時に、一人でも多くの方の安否確認の方法として、安否確認データベースへの登録推進や防災LINEの運用などを進めています。

令和7年に大阪公立大学の開学を迎えます。地域の環境も大きく変化することでしょう。その中で「森之宮フェスティバル」等の従来の事業も、若い人たちの思いを汲みながら、新しい時代に合わせた形、地域の皆さんに喜んでいただけるよう、工夫をしていきたいと思っています。大きな課題を抱える中ですが「住み良いまち森之宮」をめざし、地域の皆さんとともに頑張っていきます。



東中浜



今までの振興町会と社会福祉協議会の輪の中で作られてきた地域に新たに地域活動協議会が義務付けられ10年が経つ。発足時の規約作成のため、手引きを見ながら夜遅くまで作成したこと、組織つくりのためのあいさつ周りや説明を何度も繰り返し、設立させたことを覚えている。「地活」が出来て活動や人の周りに変化があったかどうかはわからない。

この間、青パトの導入、認知症カフェの運営、高齢者見守り隊、子ども見守りワンワンパトロール隊、災害時避難支援者名簿の作成（個別避難計画）、身元確認ワッペン等の配布等活動を実施してきた。コロナ禍版避難所運営マニュアルの作成と検証、平日の昼間に地域防災の力となる中学生へ向けての中学校防災教室の開催、子どもたちの声を地域運営に反映させるため生徒児童ら16名のサミット委員の活動など大人から子どもまで多くの声を聴きながら運営を行ってきた。この3年間コロナ禍のため、夏まつりの代替えとして、「燈花会」や冬の「ひがなか光の里」など、地域の人々の関係が希薄にならないよう知恵を絞った。地域課題を3年5年10年先を見据えて検討と企画をし、継続している。地域勉強会もその一つである。また根付くまでに若干の時間を要するものや、丁寧に緩やかに進めるべきこともあり、個性のある取組みとなっている。どれも完了ではなく、この先かわる人や時間の経過に合わせて変化していくことが必要である。私たちは、完成させることが目的ではなく「絆」を作る手段をどれだけ多く持っているかが大切であると考えている。これからの未来のために、今できることを惜しまない熱い心の持ち主が多く集まった地域である。子世代、孫世代に少しでも良い環境・良い地域を残したいと考えているからだ。東中浜は「みんなの笑顔がきらきら輝く町」をみんなで作っていくため、世代間・家族・子どもたち、各々の交流の大切さを実感しながら地域運営を皆で行っていきたく思っている。

